

月刊

300



地図と学ぶ

通巻

605

2023年2月

# 地図中心

特集

## 踊る水都とくしま





| 地図中心 605号 目次【特集 踊る水都 とくしま】                        |                            |               |
|---------------------------------------------------|----------------------------|---------------|
| 小説で描かれた徳島市の景観－「徳島市特集」の主旨説明として－                    | 三橋 浩志                      | 3             |
| 徳島市全域地勢図 徳島市全域地形段彩図                               |                            | 4             |
| 徳島市の地形・地質                                         | 西山 賢一                      | 6             |
| 城下町起源の都市・徳島                                       | 平井 松午                      | 9             |
| 徳島大学附属図書館「伊能図学習システム」                              | 平井 松午                      | 12            |
| 四国三郎と呼ばれる吉野川のこれまでの治水と今後                           | 関 健太郎                      | 13            |
| 徳島吉野川下流域の高地蔵                                      | 岡山 真知子                     | 16            |
| 徳島城の構造                                            | 森脇 崇文                      | 17            |
| 阿波藍の盛衰                                            | 森脇 崇文                      | 18            |
| 徳島城下の盆踊り                                          | 小川 裕久                      | 19            |
| 徳島市の水辺を活かしたまちづくり                                  | 畠山 輝雄                      | 20            |
| 大型店舗の立地からみる徳島市と周辺地域の商業変遷                          | 駒木 伸比古                     | 22            |
| 教育熱は高いが文教都市にはなれなかった徳島市                            | 三橋 浩志                      | 25            |
| 徳島市 明治～大正 / 26                                    | 徳島市 昭和初期 / 28              | 徳島市 昭和後期 / 30 |
| 【連載】                                              |                            |               |
| 《日本列島 1/20万 鶴の目鷹の目 20》電子地形図 20万「根室」「標津」           | 小泉 武栄                      | 32            |
| 《地図づくり最前線 010》高速描画と自由度の高さが魅力の地図開発プラットフォーム「Mapbox」 | 片岡 義明                      | 34            |
| 《脳内散歩地図 138》信長公記地図 その17                           | 江川 達也                      | 36            |
| 《日本百名山が見える鉄道 見えた鉄道 07》東海道線から伊吹山、中央線から恵那山          | 清水 長正                      | 40            |
| 《歴史舞台地図追跡 80》江戸・東京をめぐる虚像と実像（その拾）                  | 谷口 榮                       | 42            |
| 《地図を片手に大地を駆ける 74》OMM JAPAN 2022 奥美濃               | 小泉 成行                      | 44            |
| 《地図心中 復活版 24》絵解き－21 人形町の歩き方、見方                    | 高橋 美江                      | 46            |
| 新刊地形図案内 / 48                                      | 今月新刊の見どころ！・日本地図センター便り / 49 |               |
| 編集後記 / 50                                         | 地図書窓・次号予告 / 52             |               |

月刊

地図中心

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊 880円 (税込)

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員

年間購読1年間 12冊

プレミアム会員

6,600円 (税・送料込)

プレミアム会員 (シニア) 満65歳以上

5,500円 (税・送料込)

◆電子版のみのご購読会員 (紙版は送付されません)

|            |         |              |
|------------|---------|--------------|
| 地図倶楽部会員    | 会費 (税込) | 入会資格         |
| 一般会員       | 5500円   | なし           |
| 一般会員 (シニア) | 4400円   | 満65歳以上       |
| 学生会員       | 2200円   | 学生または18歳未満の方 |

地図倶楽部事務局  
map-club@jmc.or.jp 03-3485-5417

《表紙》: 特集タイトルは「藍色」

地図上: 5万分1地形図「徳島」明治29年測図

地図下: 5万分1地形図「徳島」昭和47年修正

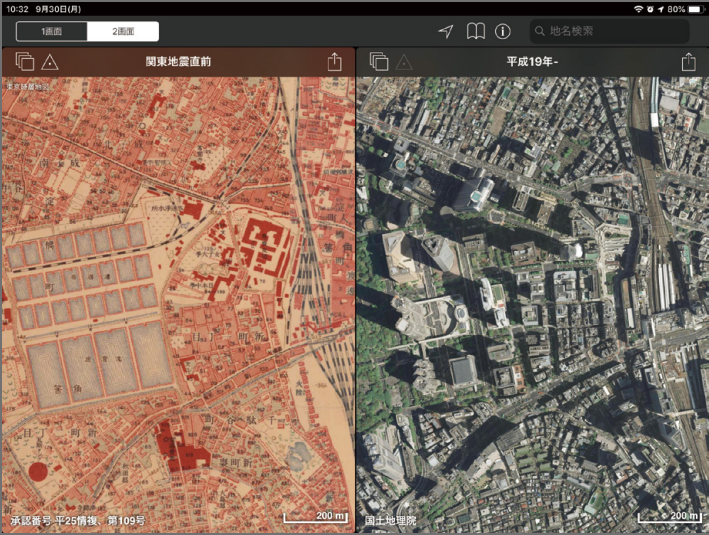
写真上: 吉野川橋ほとりから徳島市街・眉山を望む

写真下: 眉山山頂から徳島市街を望む

写真上下: 2023年1月編集室撮影

# 東京時層地図

## TOKYO JISOU MAPS



時層地図 検索



一般財団法人 日本地図センター

<https://www.jmc.or.jp/>

東京時層地図は、同じ場所の古地図と現代地図を、切り替えて見比べることができるスマートフォン・タブレット用アプリ。地図は明治期から現代まで、7種類を用意。見たい時代を選んでタップするだけで、瞬時にその時代へタイムスリップ。GPS 情報を利用し、今、自分がいる場所を古地図上に示すことができる。端末を持って移動すると、それに合わせて地図も移動。まち歩きが一層楽しくなるアプリ。

「時層」は「時間の重なり」を意味する造語で、古地図を重ねて見ることで、地層のように、その土地の変遷を捉えることができる。

文明開化期 (1876～1886 年)、明治のおわり (1906～1909 年)、関東地震直前 (1916～1927 年)、昭和戦前期 (1928～1939 年)、高度成長前夜 (1948～1960 年)、バブル期 (1984～1990 年)、現代の7種類の地図のほか、現代の地形図、航空写真、航空写真+地図の計 10 種類を用意し、最新版では各時代の航空写真などを加え計 19 種類となっている。

iPad 版では、一画面表示と二画面表示があり、19 種類を自由に組み合わせ、並べて表示することができる。ピンチイン・ピンチアウトで拡大縮尺も自由自在。

現在、iPhone 版の「東京時層地図」「横浜時層地図」、iPad 版の「東京時層地図 for iPad」があり、Android 版も用意されている。



# 小説で描かれた徳島市の景観 -「徳島市特集」の主旨説明として-

みつはし ひろし  
三橋 浩志

びざん  
【眉山】

さだまさし(2004年)『眉山』では、「ベランダの窓を開けると、正面に眉山が見えた。子供の頃から気づけばいつでも眼前にあったこの山は、咲子の中では祖父のような存在と言ってよかった。そして、吉野川はあたかも祖母というような思い」と描いている。クライマックスは阿波踊りの場面である。瀬戸内寂聴(2001年)『場所』では、「眉山は徳島の町のほとんどの場所から望めた。眉のようになだらかな稜線は、遠くから見ても近くで眺めても人の心を和ませた。」「振りむけばそこに眉山があった。」と描いている。そし

て、小学生時代の新町小学校の校庭からの楽しかった思い出と、戦後の不倫密会場所を、眉山で対比的に描いている。

## 【モラエス通り】

新田次郎・藤原正彦(2012年)『孤愁(サウダーデ)』は、ポルトガルの神戸総領事を辞した後のモラエスの徳島での様子を描いている。毎日散歩した伊賀町を「眉山の麓にそうように、南北に走る道幅4mほどの道だが、両側からこんもりと生い茂った生垣や葵、ヒバ、カラタチなどの木々がせり出していて緑のトンネルのように見える」と描いている。



写真3：地蔵橋駅付近の多田羅川(2022年11月著者撮影)

## 【多田羅川】

徳島空襲で焼死した母の故郷の丈六町小谷について、瀬戸内寂聴(2001年)『場所』で「多田羅川は水が澄み、小さな川だがのどかな風情を残していた。ところどころ白くなった薄が揺れている。」と描いている。徳島市は、四国三郎の大河・吉野川の三角州が注目されるが、多田羅川のような小河川も重要である。大小様々な河川には、地域や人々の歴史や思い出が紡がれて水面に映し出されている。

## 【徳島市特集の視点】

小説は文章で景観を描きます。本特集は、「表高25万石、実高40万石」と言われる経済力を有した阿波・蜂須賀藩の城下町の徳島市を①地形・地質環境、②城下町からの発展、③吉野川の治水と人々の暮らし、④阿波藍と阿波踊りの歴史、⑤商業構造と水辺を活かしたまちづくり、⑥文教都市、の視点から、地図と写真、図表をもとに描きます。



写真1：新町川沿い「藍場の浜」東側の新町川水際公園には、瀬戸内寂聴の文化勲章受章を記念したモニュメント「ICCYORA(作・流政之：2009年)」と向こうには眉山(左)。その後ろには生誕100周年記念碑(肖像画・横尾忠則：2022年)(右)。(2022年11月著者撮影)



写真2：モラエスが住んだ武家屋敷・伊賀町の「モラエス通り」(右)と眉山山麓の阿波踊り会館前のモラエス顕彰碑(左)。(2022年11月著者撮影)

## 三橋 浩志

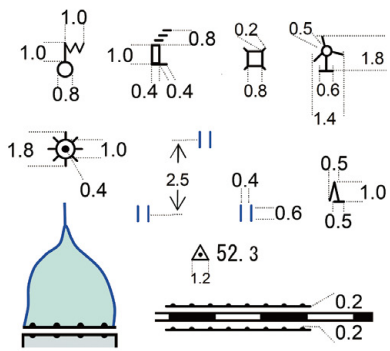


文部科学省教科書調査官(地理・地図担当)。1965年生、東京徳島県人会常任理事。専門は経済地理学。博士(地域政策学)。



# 地図記号 500

## 地図記号 500



|         |      |
|---------|------|
| 基準点     | / 4  |
| 河川・湖沼・海 | / 5  |
| 道路      | / 6  |
| 鉄道      | / 10 |
| 建物等     | / 12 |
| その他の構造物 | / 19 |
| 植生      | / 26 |
| 特定地区    | / 29 |
| 陸部の地形   | / 35 |
| 水部の地形   | / 37 |
| 行政区界    | / 38 |
| 索引      | / 43 |

### 《コラム》

|                                |       |    |
|--------------------------------|-------|----|
| 整飾の変遷                          | 編集室   | 2  |
| 図式・地図記号                        | 吉成 秀勝 | 39 |
| 「自然災害伝承碑」の地図化を通じた災害教訓の周知・普及の取組 | 安喰 靖  | 48 |

一般財団法人 日本地図センター

## こんなにあった！ 地図記号

自然災害伝承碑 を加えて  
四刷を発行

明治の地図から、激動の大正・昭和、そして平成・令和の多色刷まで集めてみました。

日本の基本となる地図（地形図）を整備するために、明治初期の地図で生まれた地図記号は、時代と共に移り変わってきました。そのたくさんの地図記号の中から 500 (+1 自然災害伝承碑) を選んで掲載しました。

歴代の地図に使用された個々の記号は、作られた当時の社会情勢を物語っており、その時代に思いを馳せることができます。また、地図づくりが、アナログからデジタルに変わり、記号の味わいも変化しているように見えます。

記号は、年代の新しい図式順になるよう掲載



サイズ：A4判 47 ページ オールカラー 定価 550 円（本体 500 円＋税）

### ●ご注文方法

#### ○インターネット：

日本地図センターネットショッピングサイト

<https://net.jmc.or.jp/book/map/kigou500.html> よりご注文下さい。

#### ○メール：

日本地図センター情報サービス部情報サービス課 [maps@jmc.or.jp](mailto:maps@jmc.or.jp)

お名前、お電話番号、ご住所、冊数を明記してご注文ください。

### （一財）日本地図センター

〒153-8522

東京都目黒区青葉台 4-9-6

情報サービス部情報サービス課

TEL:03-3485-5414

FAX:03-3465-7591

<https://www.jmc.or.jp/>

●お問合せ



地図記号 500

# 地図書窓

## 徳島のトリセツ

昭文社 編

「地図で読み解く初耳秘話」をキャッチコピーに、地図出版社の昭文社が刊行する「●●のトリセツ」シリーズ。各都道府県を1冊で取り上げ、地図を読み解きながら、地形や地質、歴史、文化、産業など、その都道府県の特徴や魅力を紹介しています。さらに、知られざるトリビアをコラムとして取り上げ、読み物としての興味関心も高めています。2019年9月に『神奈川のトリセツ』からスタートし、2022年1月の『高知のトリセツ』で47都道府県が全て揃いました。『徳島のトリセツ』は、コンプリートの直前、2021年11月に刊行されました。

『徳島のトリセツ』は4章構成で、「Part 1：地図で読み解く徳島の大地」は、地形や地質、河川などを豊富な地図をもとに分かり易く概説しています。地質や地形は、昭文社のノウハウを発揮した分かり易い地図が満載で、「地図で読み解く」の本領発揮です。「Part 2：徳島を駆ける充実の交通網」は、鉄道の歴史はもとより、道路、船舶、航空などの交通網を地図で解説しています。特に、廃線となった鉄道や、世界初のDMV(デュアル・モード・ビークル：鉄道とバスの両方を1台でこなす)の解説は、県民でも初めて聞いたという人も多い話題です。「Part 3：徳島で動いた歴史の瞬間」は、古代から現代までの徳島の歴史を写真や史資料、そして地図で解説しています。「絵図で見る徳島の名勝地」など、貴重な美しい絵画史資料から、昔の徳島の景観を楽しく見ることができます。「Part 4：徳島で生まれた産業や文化」は、すだち、鳴門わかめ、鳴門金時などの特産品を自然環境も交えて地図で解説しています。さらに、大塚グループ、LED集積地域の形成過程など分かりやすく解説しています。もちろん、ご当地グルメも紹介されており、観光ガイドとしても有効です。

道路地図の老舗、昭文社の地図も、定番の「まっぷる」や「家族でお出かけ」に加えて、今は「ことりっぷ」、「●●のトリセツ」、さらに「スリパチの達人」や「にゃっぷる」シリーズなど、読者に「刺さる情報」を分かりやすく地図で伝える編集が増えています。『徳島のトリセツ』は、本特集号「徳島市」を含む徳島県を知るために、さらに地図で読み解く地域概説のあり方を知るために、新しい地図本の楽しさを感じ取れる一冊です。

(文部科学省・教科書調査官・三橋浩志)



昭文社  
2021/11/24 発行  
B5変形 112頁  
1,980円(税込)

次号予告 2023年3月 通巻 606 号

毎月 10 日発行

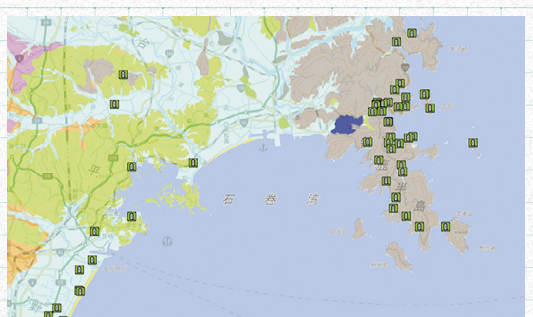
地図と学ぶ 月刊

地図中心

特集

「地理総合」実践教室

高等学校で必修科目「地理総合」が2022年4月に始まってから早1年。およそ半世紀ぶりの地理分野の必修化で、教育現場では相当のご苦労をされていると耳にしています。そんな「地理総合」の現場で役立つ実践授業をご紹介します！



地理院地図(地形分類図+自然災害伝承碑、2023年1月取得)

バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています！ 03-3485-5417(事務局)

地図中心

2023-2 通巻 605 号

発行 2023年2月10日

発行所 一般財団法人日本地図センター  
〒153-8522

東京都目黒区青葉台4-9-6

電話 03-3485-8125

FAX 03-3485-5593

(「地図中心」編集室)

メール chushin@jmc.or.jp

URL https://www.jmc.or.jp

©一般財団法人日本地図センター

定価 880円(税込)

印刷所 昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

雑誌86689-02



4910866890232  
00800